

# 30P1-am119

日向薬事始め(その4) - 延岡藩侍医、白瀬道順と白瀬永年 -

○山本 郁男<sup>1,2</sup>, 宇佐見 則行<sup>1,2</sup>, 井本 真澄<sup>1,2</sup>, 岸 信行<sup>2,3</sup> (九州保福大薬,<sup>2</sup>九州保福大QOL研究機構,<sup>3</sup>北小路調剤薬局。)

## 【目的】

先に日本薬学会 126 年会<sup>1)</sup>において延岡の医祖と呼ばれる、渡邊正庵(1631-1699)を中心とする江戸時代初期の延岡藩における医薬の流れを報告した。本報では渡邊正庵の学風を引き継いだといえる白瀬道順、白瀬永年と同門の士をとりあげる。

## 【結果および考察】

白瀬道順は渡邊正庵の孫である渡邊新蔵の弟子であり、当時の延岡藩主、内藤政陽<sup>まさあき</sup>の建てた学問所(のちの広業館)の初代講師となった儒学者である。藩主内藤家は代々学問を好む藩政改革を行っており、城下に明堂館という医学所が設けられたこともあった。白瀬道順の孫を永年と呼ぶ。同じく内藤政嗣<sup>まさつぐ</sup>、正和<sup>まさとも</sup>に仕えた侍医であり、延岡の歴史書「延陵世鑑」を著した碩学の士である。道順は安永 5 年(1776) 70 歳で没し、永年は享和 3 年(1803) 29 歳の若さで没している。永年の子は白瀬炎郎といい、文化 5 年(1808) 内藤政順の命により長崎にて蘭学を修めた。白瀬道順とその一門は復古学派に属する儒医である。従って九州の地、しかも決して大きいとはいえない延岡藩(7万5千石)において高い文化的土壌を培った白瀬道順と同門の士達の功績は大きいといえる。

<sup>1)</sup> 山本郁男, 宇佐見則行, 井本真澄, 日本薬学会第 126 年会, 仙台, 講演要旨集 4 p. 213 (2006).